

CASE
01

必要な所に手すりが付いて、お風呂も階段もラクになりました。

設計・監理・施工／合資会社KCR甲斐中央リフォーム社

足元の不安なく、お風呂に入れるように。

ひざの関節症を患い、足腰も弱ってきた奥様にとって、すべりやすいお風呂は危険な場所になっていました。そこで、まず洗い場に手すりを設け、浴室でしっかり立つことができ、座ったり立ったりも容易にできるようになりました。もう1つのポイントは浴槽をまたぐときの不安解消です。浴槽の周囲の2方向に手すりを設け、浴槽への出入りが安全にできるようになりました。手すり設置後は、「安心して入浴できるので、お風呂に入るのが楽しみになった」と喜んでいただいているです。

Before

洗い場を歩くときや浴槽をまたぐとき、つらかった。



お客様の状況

夫婦
妻がひざ関節症・下肢筋力の低下 要介護2
戸建住宅／築年数:38年
名称:K邸／所在地:山梨県甲府市

手すり選びのポイント

縦手すり

II 体勢の保持



横手すり

II 移動の補助



握り径について

しっかり握れる
水まわり → 32mm
やや太めの
移動空間 → 35mm

浴室やトイレなどの水まわりで使用する手すりは、しっかり握れるやや細めの32mm程度を選ぶのが良いでしょう。廊下などの手すりは、やや太めの35mm程度が使いやすい太さです。



すべりにくい手すりのあれこれ

インテリア・バー セーフティタイプ

ソフトな感触の軟質樹脂を採用。より握りやすくするために凹凸形状を施しています。

インテリア・バーFシリーズ ソフトメッシュタイプ

ソフトな感触の軟質樹脂を採用し、すべりにくくするために網目模様を施したタイプです。

フリースタイル手すり セーフティタイプ

より握りやすくするために凹凸形状2列を施しています。

急勾配の階段の上り下りをサポート。

このお住まいは1階が駐車場(現在は不使用)で、2階に居室部分があります。そのため、どうしても階段を上り下りしなければなりません。そこで、急勾配の階段に手すりを設け、日常の安全を確保することになりました。特に工夫したのは、踊り場の縦手すりです。「踊り場から見下ろすと、急勾配でこわい」という奥様が、この手すりを頼りに、安心して一步を踏み出せるように配慮しました。また、歩くときに前かがみになる奥様に合わせて綿密に手すりの高さを検証しています。そのほか苦労したのは、手すりの補強です。築38年とかなり古い住宅だったため、壁の補強テストを繰り返し、安全性に留意しました。

Before

階段や廊下の移動がこわい。



KCRさんに
聞きました!

「介護保険適用リモデルはココが大切」

住まいの危険な場所を見逃さず、優先順位を決めてかしこくりモデルしましょう。

介護保険の住宅改修費は上限がありますから、優先順位を決めて本当に危険な場所から改修することが大切です。そのために、まず普段どおりの生活動作をしていただいて、どこが危険か、どこに手すりが必要か、じっくり検討します。例えば、階段を上るとき、左右どちら側を通るかも重要なポイントです。右側をよく通るのに、左側に手すりを付ければ、せっかくの工事がムダになってしまいます。こうしたことも踏まえて動作確認を十分に行い、費用対効果の高い、本当に価値あるリモデルを提案しています。



◆手すりの太さや形状、材質のわかる見本をお持ちして、お客様に合う手すりを決めています。工事後に余った手すりを再利用しているのでエコにもつながっています。



モットーは「一生のお付き合い」。誠実かつ丁寧な仕事で定評ある(資)KCR甲斐中央リフォーム社の沼田社長。